

渾沌会

(九州大学芸術工学部・九州芸術工科大学 同窓会)

おひさしぶりの

Remember



渾沌マークは九大芸術工学部のシンボル。そのデザインは、数年に渉り幾度か微調整されたが、最終的には創設期の原型に戻った。

「よろしく、先輩」

今年からは
九大OBが仲間入り。

● サークル、学祭企画、学科内
あらゆるところで「芸工」という
フレーズを耳にし、語ってきまし
た。こんなに自分の学校が好きで
誇りを持つて居る人がいる大学なん
てそうないと思います。”熱い”
大学にきてよかった。そしてそう
感じることのできる「芸工」に
関わったことを誇りに思っし、今ま
で関わってきた全ての人に感謝し
たいです。／環境 柳龍馬

● 正直、自分には九大生という自
覚がありません。4年の大半を大
橋キャンパスで過ごしたからだ。
芸工大から九大へ。確かに僕達を
取り囲む環境は変わった。けど、
先輩たちから受け継いだ『ゲイコ
ウ』の精神は、大橋キャンパスで
の生活を通してしっかりと受け継
いでいる。そして何より、統合に
よる様々な変化とは関係なしに、
先輩、同級生、そして後輩たちと
このキャンパスで出逢い、共に過
ごせたことは、自分にとって一生
の宝物だ。／環境 山崎正治

● 九大になって変わった。入学以
来言われ続けてきた言葉だ。しか
し果たして何が変わったのだろうか。
ノリ？ 礼節？ 意欲？ 否、変わ
ったのではない。違っただけだ
と思っ。私達は学年を隔てる毎に、
それぞれ一年間ずれた違う時代を
生きてきたのだ。変わったって見え
るのは、それぞれが心に描く原風景
が変わってないからだろう。も
ちろん、私達の学年にも原風景が
ある。私達はその原風景を心に抱
き、これからも精一杯生きていく
だけである。／工業 横山雄樹

● 『芸工生と九大生はやっばり違
う』、『変わったしまった』そう
言われるたびに戸惑いを感じた。
何が違っただろう？ それは悪いこ

となんだらうか？でも私たちに
それがわからない。私たちはどう
すればいいのだろうか？私たちが
違って変わらなくは無いです思っ
だ。だって、先輩達が語る、先輩達か
ら感じる『芸工』の匂いはいとも
魅力的だったから。だったら私た
ちは何をすればいいのだろうか？
これからも模索して歩いていき
たい。／工業 村上由記

● 『キミ、君。教授は突然生徒
を指差した。真っ赤な服、ぐりん
ぐりんのパーマ。「良いね。目立
つよ」。目立つことが良い事かど
うかはわからない。しかし、「ア
ンタが良いと思えば良いのだ」と
肯定された気がして、じんわり
た安堵と喜びがあった。4年前の
春である。『ワタン』はこの色が
好き。この曲が好き。君が好き。
代替物ではない『自分』のこだわ
り！自分の『オリジナル』な魅力
を創る種だ。個人的には、芸工生
が持っている素養だ。持つととて
も体力の要るモノだ。だけど、胸
に抱え続けてほしい感覚なのだ。
／画像 田中裕子

● 私は芸工で、一生通じる『もの
の見方』に出会えた気がします。
この出会いには私に、様々な角度か
ら衝撃と変化をもたらしてくれま
した。卒業して社会に出ても、一
OBとして、何らかの形で芸工や
そこで出会った仲間たちとつなが
っていきたいと思っています。／
画像 緒方悠智子

● 九州大学との統合で変わってし
まったこともあるだろう。けど、
ずっと変わらず残っていくモノも
芸工にはある。立場は違えども同
じ芸工生として温かく接してくれ
る先輩方、私達と同じ境遇で芸工
を思いっきり楽しもうと一生懸命

な後輩達、そしてこの変革の時期
を共に悩み全力で切り開いてきた
九大一期生の仲間達。みんなそれ
ぞれ「芸工」で悩み、考え、楽し
んでる。そんな仲間と共に芸工
で4年間過ごせたことを一生の誇
りに思っ。／音響 田久保博樹

● 「大学はどこ？」 「九州大学で
す。あ、でも以前は九州芸術工
科大学というところで。」余計に答
えてしまっことがよくあります。
形は九大、心は芸工大。そこを知
って欲しいのです。これからこの
学校の形はどんどん変わっていく
と思いますが、その中でもがいて
前に進む「芸工生」を卒業後見守
つてゆきたいと考えています。／
音響 波多野亮

● 時代の境目にはいろんな価値観
が火花を散らしてぶつかり合っ
て、だから必死にもがいて、苦
しんで、闘わなきゃいけない。で
もそれが楽しいし、それが大事だ
と思っ、いい「もの」をつくるた
めには、ぶつかり合いながらもク
ロスオーバーできる。「芸工」は
そんな「土壌」でありつつけてほ
しい。／芸術情報 村上英峻

● 九大なんですけど、でも元々
は芸工大で。」と、いつもどろ
もどろな説明をしていた。けど、
結局は自分の気持ち次第。九大生
であり、芸工大生。それをとても
誇りに思っっている。自分達のやり
たいように道を創っつけていける、こ
んな不確かでも可能性を秘めた一期
生になれたことを本当にありがた
く思っ。後輩の皆さん、残してい
きたい部分はしっかりと引き継ぎ、
どんどん新しい風も吹き入れてい
つてください。／芸術情報 平山
さくら

名簿発行に 着手します

詳細は次頁の記事を参照ください

発行にあたり
あなたの情報を
確認させて
ください
● 詳細は同封の調査票を参照ください

配付は2009年1月 予定
名簿購入の
希望者を
募集します
売価：5000円
● 詳細は同封の申込書を参照ください

5年ぶりの名簿発行です

『発行不要論』を踏まえつつ

同窓会の黎明期より、私は役員として名簿に関わってきましたが当時の名簿はひどいものでした。判明率は数10パーセント足らず。誰かに連絡を取りたいと思っても、どうにもならないもどかしさ。ご存知のように、業者委託を行ってからのもの、判明率は飛躍的に伸び、名簿のありがたさを感じたものでした。ところが、ちょうどその頃から、インターネットや携帯電話が想像をはるかに超えた勢いで普及し始めました。いまやほとんどの方が、何らかの形でメールアドレスを持ち、気軽に、いつ何処でもコミュニケーションを取っているといっても過言ではないでしょう。これらのコミュニケーションツールで、簡単に、それこそ芋づる式に情報が入手できるようになっており、個人レベルでは<名簿がなくてもほとんど支障のない状況>が出来上がっていると思われる。

最新情報の整備のためにも

率直なところ、このような背景の中で、同窓生が網羅された名簿（媒体が何であれ）の存在価値が、どこにあるのだろうといった疑問が生じます。が、同窓会という組織レベルと各会員個人レベルでの情報の共有は、決して同一視されるべきではないと考えます。前述したような状況を踏まえ、現状のまま名簿情報の整備を怠っていると、あっという間に黎明期に逆戻りしてしまうのではとの不安がよぎります。ただし、名簿情報の一部あるいは全部の掲載拒否という事態が発生しつつあるのも事実です。しかしながら、掲載する、しないは別にして、会員各位のネットワークステーションとして、（理想的には）常に最新の情報を整備しておくと言うことが、同窓会の行うべき事業ではないかと考えています。

『発行』を決断しました

役員会では、2007年度総会報告での「発行保留」も含め、様々な観点から議論を重ねてきました。結論は「発行」です。発行するしない、あるいは情報を掲載する、しないにかかわらず、名簿整備～発行は同窓会の根幹事業であるとの判断です。このリメンバーに<確認調査書式>を同封しております。詳細をご参照いただき、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

同窓会HP（渾沌会WEB）上でも、随時の情報更新を受け付けております。是非ともアクセスください。

名簿は<有償>配布です

2007年度総会報告での「発行保留も選択肢」の理由は《財源の逼迫》にありました。その後、発行業者を含め、関係者の知恵を結集して、何とか発行できるであろう財源的な目途をつけました。しかしながら財政状況が向上したわけではありません。したがって、当初予定通りの有償配布とします。

5年前までは無償配布を実施していましたので、以降の会

員には不本意ながら不公平が発生します。非常に心苦しく思いますが、現状へのご理解を賜り、割り切りをお願いするのみです。

このリメンバーに<購入申込案内と振込用紙>を同封しますので、是非とも積極的な購入申込をお待ちしております。

事業予算：90万円 / 同窓会負担金（購入申込の多少に無関係）

申込が増えれば増えるほど、一定率で同窓会利益につながります。今後の同窓会活動の活性化のためにも、是非ともご協力をお願いする次第です。

購入の判断材料の一助として、出来上がりのイメージや判明率、掲載率等については、随時、同窓会HPにて情報提供していきます。

平成21年1月に発行予定です

難しい問題で議論が紛糾したこともあり、発行準備着手が遅れました。お詫び申し上げます。関係先とも協議の結果、完成予定は平成21年1月となりました。

発行にあたっての校正には万全を期しておりますが、万が一のミスを発見された場合には、同窓会HPほか、何らかの手段でご指摘くださいますようお願いいたします。

【お知らせとお願い】

名簿発行にかかわる実務は前述しましたように外部業者（株式会社サルト）に委託しております。今回事業は有償配布としましたが<広告収入>も発行財源の一部に組み入れております。その関係上、広告募集、名簿購入に関して、株式会社サルトより直接、皆様方のところへ勧誘が行く仕組みになります。悪しからず御了承ください。

なお、次年度には会長改選の時期を控えており、次期会長の新たな考え方も予測できます。現会長の自分としては、今後の展開につきましても会員各位のご理解、ご協力を賜りますようお願いする次第です。

本部部长：藤田啓晴 / 音響8期



発行するなら
喜んでいただけるものを目指します
名簿作成担当：安部雄一郎 / 環境9期



個人機密は私が死守します
情報管理担当：藤智亮 / 工業20期



渾沌会の財源は私が死守します
会計担当：石橋圭太 / 工業25期

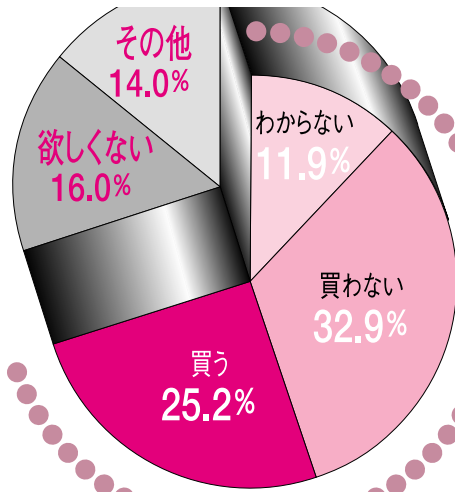
最新版が欲しい

タダなら欲しい

私は要らない

お金と資源のムダ使いでは

あってもなくてもどちらでも

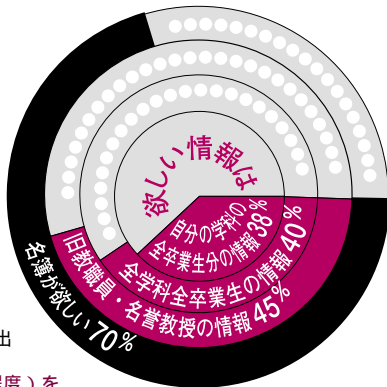
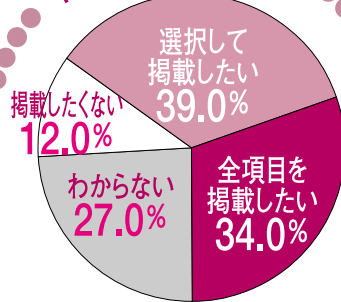


今度の名簿は欲しい 会員70.0%のご意見ですが

名簿のメディアは.....HPからダウンロードがいい(37%)、印刷物がいい(30%)
 名簿に自分、または自社の有償広告(1口1万円程度)を.....出稿できない・したくない(78%)、出稿できる・したい(5%)

今後の同窓会活動のため特別寄付(1口5千円程度)をお願いしたら.....協力できる(47%)、協力できない(30%)

自分の情報は



名簿アンケートへの御協力、 ありがとうございました

2007年5月に「名簿発行に関するアンケート」を会員の皆様へ実施させていただきました。4,457通発送し、658名のご回答をいただき、14.8%の回収率でした。ここに、ご協力いただいた皆様方に御礼申し上げます。



主なご意見を要約すると、

- ・名簿は発行して欲しいが、得たい内容は限られている
- ・今後はデジタルデータによる配布を検討いただきたい
- ・名簿流出については万全の対策をいただきたい
- ・特別寄付については内容による
- ・終身会費を支払った人との公平性にも配慮が必要などです。

皆様のご意見を踏まえ、事務局で議論を継続しつつ、今回は、このリメンバー11号に名簿データの確認調査を同封させて頂きました。名簿のメディアや配布情報については、それぞれ長短があり継続して検討します。同窓会の活動の在り方を問う事項でもあり、全体事業をみながら判断したいと考えております。

朝廣和夫 / 環境設計22期



2008年度版名簿はこんなイメージ 確定次第、同窓会HP他で報告申し上げます

A4 約300ページ / 売価：5,000円

ご紹介するイメージは発行予定の実物とは異なります
 わかりやすくお伝えたく、ダミーの文字・写真で紹介しております

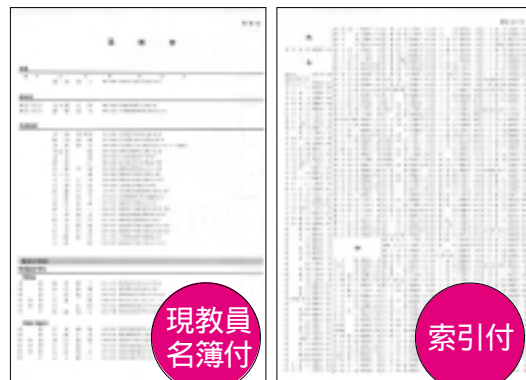
お申し込み後の解約はできませんので、御注意ください

あのキャンパスがなつかしい巻頭グラビア付きです

あのひと、どこでどうしているのやら
 探しやすい索引付きです

名簿 / 学部・大学院の入学年度による学科・専攻・学年区分 現教員ほか
 知りたい情報が欠落している場合は、御本人の意志ですので、ご了承ください

××期生 0000年入学		設計学科 ××期生
20091 芸工 一郎 (現) 〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1 TEL 092 000 0000 FAX092 000 0000 Tarou@design.kyushu-u.ac.jp (勤) 澤沌社 名簿情報管理ターミナル 〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1 TEL 092 000 0000 FAX092 000 0000 Tarou@design.kyushu-u.ac.jp	20101 芸工 一子 (現) 〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1 TEL 092 000 0000 FAX092 000 0000 Tarou@design.kyushu-u.ac.jp (勤) 澤沌社 名簿情報管理ターミナル 〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1 TEL 092 000 0000 FAX092 000 0000 Tarou@design.kyushu-u.ac.jp	
20092 芸工 二郎 (現) 〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1	20102 芸工 二子 (現) 〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1	
20093 芸工 太郎 (勤) 澤沌社 名簿情報管理ターミナル 〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1 TEL 092 000 0000 FAX092 000 0000 Tarou@design.kyushu-u.ac.jp	20103 芸工 大子 (勤) 澤沌社 名簿情報管理ターミナル 〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1 TEL 092 000 0000 FAX092 000 0000 Tarou@design.kyushu-u.ac.jp	
20094 芸工 三郎	20104 芸工 三子	
20095 芸工 四郎 (現) 〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1 TEL 092 000 0000 FAX092 000 0000 Tarou@design.kyushu-u.ac.jp (勤) 澤沌社 名簿情報管理ターミナル 〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1 TEL 092 000 0000 FAX092 000 0000 Tarou@design.kyushu-u.ac.jp	20105 芸工 四子 (現) 〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1 TEL 092 000 0000 FAX092 000 0000 Tarou@design.kyushu-u.ac.jp (勤) 澤沌社 名簿情報管理ターミナル 〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1 TEL 092 000 0000 FAX092 000 0000 Tarou@design.kyushu-u.ac.jp	
20096 芸工 五郎 (現) 〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1	20106 芸工 五子 (現) 〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1	
20097 芸工 六郎 (勤) 澤沌社 名簿情報管理ターミナル 〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1 TEL 092 000 0000 FAX092 000 0000 Tarou@design.kyushu-u.ac.jp	20107 芸工 六子 (勤) 澤沌社 名簿情報管理ターミナル 〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1 TEL 092 000 0000 FAX092 000 0000 Tarou@design.kyushu-u.ac.jp	
20098 芸工 七郎	20108 芸工 七子	



現教員
名簿付

索引付

【名簿掲載項目】

- ・氏名
- ・現住所 / 本人選択
- ・勤務先住所 電話 FAX / 本人選択
- ・メールアドレス / 本人選択

同窓会40周年企画としての
 プレミアムも検討中です

『私の仕事』LIVE版！2007

荒野を目指す学生諸君に、今年もまた衝撃の芸術工学最前線をプレゼント!!



芸術工学座談会運営事務局
河原一彦(音響16期)

環境設計学科テーマ

芸術工学が支えてくれたもの

「愛・地球博」会場設計と外国館の計画・運営の経験から

語り部：森隆城（7期）Vs前鶴賢二（11期）

今回のお話は、まだ記憶にあたり、2005年「愛・地球博」の第一線で活躍されたお二人の先輩。それぞれ仕事内容は違っても、デザインに対する考え方に、共通する「芸術工学」の視点が含まれており、非常に興味深いものでした。

まずはお二人の万博でのお仕事について。当時、菊竹清訓建築設計事務所で、会場設計チーフプロデューサーアシスタントとして会場のマスタープランやデザイン監修に携わっていた前鶴さんは、あの万博会場の目玉のひとつであった空中回廊「グローバル・ループ」の設計を例に、デザインについて語ってくださった。

よくこんな柱で建っているなあ...とだれもが驚いたグローバル・ループ。はじめはやはり、土木や管理運営の専門家などからの反対もあったようだ。しかし、建築の立場から細かい検証やデザインを行っていった結果、工期やコスト等の懸念を解決しただけでなく、グローバル・ループは人の流れを生み出し、管理運営を容易にし、サインとしても機能するなど、各専門常識では予測できなかった成果をもたらしたのだとか。広い会場の中、多

種多様な場所をぐるっとつないだこのループは、観客に歩くことを楽しませ、人と国（パビリオン）国と国をスムーズにつないだ。まさに地球大交流だ。「デザインは専門常識を乗り越えるその作業自体にある」という言葉が印象的であった。



また、乃村工芸社に所属しておられる森さんは、「建築図面や空間のこともわかる外国館展示の窓口」として、外国館づくりに携わっていたときの経験を話してくださった。様々な分野の専門家が集まったの仕事は、在学中の他学科との交流の経験が活かしているのだという。その中で、外国館のプランに問題があることに気づき、スタディ模型をつくることで、誰にでもわかりやすく問題を理解してもらうことができた...という環境設計らしいエピソードが語られ、さすが!と唸ってしまった。そうした地道な支援から、事故災害による死者を1人も出さずに運営でき、それは万博史上非常に稀なことだったようだ。

お話は「環境設計学科とは？」へ。

前鶴さんは環境設計学科の特色を「非専門的であり、環境設計の名のもとに建築から少し距離をおいて建築の専門性を薄くしていること」とおっしゃり、森さんも「さまざまなジャンルにすんなりと興味を持てる環境にあり、つぶしがきく」と言い換えていらした。

建築、造園、都市計画...と、幅広く学ぶがゆえに、それぞれが薄いようにも感じる環境設計の専門性に、個人的にコンプレックスを感じることもあったけれど、常識が予測できないデザインに携わるものとしては、専門分野の常識にこだわりすぎないことが大事であり、その分野から束縛されにくい「非専門性」はデザイナーにとって大きなアドバンテージなのだという。これまで様々なものを対象にデザインをされてきた先輩方のその言葉

に、目からうろこが落ちる思いだった。

最後に前鶴さんは「デザインは形態を創造するときのみでなく、あらゆるものに必要な作業。デザインすることを楽しんで」と。森さんからは「様々な世界を理解する努力と、自分の得意とするものの追及を」とのアドバイスが。お二人の万博での仕事は共通して、モノのデザインを通じ、人と人、人と環境の関係をもデザインしていた点は大変興味深く、私もそんな深いデザインを実践してみたい、とわくわくした。

多種多様な国と文化と技術が交じり合い、つねに新しい時代を切り開いてきた万博。その万博の縮図は母校に似ており、フライパンの周りを他の学科の学生が行きかうイメージに重なるのだそうだ。そんな実はすごい環境



にいることに気付かず、自分の専門の中にばかり閉じこもっていたのは、MOTTAI NAI! どうやらこのキャンパスの中で積極的に自分を広げていくことが、「非専門的な環境設計家」になるコツであるようだ。

レポート/環境36期 原 愛子(修士1年)

画像設計学科テーマ

画像設計的なちょっと気になる時代の読み方

語り部：望月健児（7期）Vs杉野壮（7期）/司会：清須美 匡洋（9期）

全自動おそうじトイレ「アラウーノ」クリエイティブ・プロセス

杉野先輩のこのお話、実際は企業秘密ものだそうです。松下電工のマーケティング・クリエイティブの考え方に則した広告事業の全貌が明らかに...これはなんて貴重な機会!

<メディア量×メディアプラン×クリエイティブ力 効果の最大化>という図式のもと、「強い広告を作ることによってそれ以上の認知率をあげよ



うという考え方で効果の最大化を狙っている。」と、あらゆる製品に通ずる考え方を教えていただきました。その「クリエイティブ」には「お客さんの琴線に触れる表現」

が大事になってくるということで、本題のクリエイティブ・プロセス概要へ。

プロダクトデモによる調査...トイレの現状、機能特長評価、購入時の重視点などを調査

訴求コンセプトの決定(コミュニケーションポイントの立案)... どういう表現・言い回しが適切か?

広告案の試作... の訴求ポイントを「絵」にしたらどうなるか?

残存コンセプトの調査... 広告案を見た後、何を覚えているか?

調査に基づくクリエイティブプランをCMや広告などに試作。これをWebやグループインタビューなどで効果測定し、必要な手直しを重ねる事でニーズに応えられる商品と効果的な広告になっていくのだそうです。

「住宅設備をやっている松下電工に限っては、エリアマーケティングをやっています。例えばキッチンなら、魚を1匹丸ごと買って来る海辺の町と、切り身ですませることが多い都会とでは、シンクの長さも違ってくる」と

のお話が印象的でした。

また、広告に起用するタレントと広告代理店の関係、その表現と公正取引委員会との兼ね合いなど、業界の裏事情まで聞けました。

哲学を学んで～考え方を商売にする～

望月さんは、(株)リクルートでの経験を活かして、3年生・M1を対象にした『就職塾』という就職活動に関する講座を開かれました。現在のお仕事も、企業相手の教育を主な事業とされているそうです。

「今から4つの絵を描きます」と、チョークと黒板で説明を開始。まず、哲学との出会いのお話です。入学時「哲学を勉強せよ」との故今井先生のお言葉に、「デザインしに来たのに」と衝撃を受けたが、その真意がだんだん理解できたとの事です。ここで<チョークを投げた場合>の図。

・見えるのが『現象』(だが、どこに飛ぶかわからない)
・見えないのが『原理』(だが、放物線軌跡はわかる / 数式 $y=ax^2+bx+c$)
「杉野さんのお話は、CMや製品の裏に隠れた普段見えない部分だから『原理』にあてはまる」との補足説明も。就職塾を通して久しぶりに芸工大と学生を見て「九大になってからも変わってない、つまり見えないものは変わってないと感じた」と、九大との統合を芸工大の特性に絡めて語っていただきました。

そして再びご自身の過去を振り返ってのお話へ。

リクルートにいた20代は“見えるもの”が面白くて一生懸命やったが、28歳のとき30代以降の姿が突然見えなくなり、体調を崩し入院。福岡で過ごしてきた人間と東京で切磋琢磨してきた人間との、会社の中での戦い方の違いを痛感し、31歳で退社し会社を起業することに。リクルート時代に心酔したのは、ロイヤル社長。成功した人の何かを真似しようということで、社長と同じ床屋に行ってみたこともあるのだとか...。「君が求めているのはフィロソフィーだよ。」との言葉にビジネスのロマンを感じ、その後もずっと勉強して来たことが、今の仕事を始めるきっかけになったそうです。これらのお話絡めて<人生と年齢変遷>の図。

青春
20代

朱夏
30代

白秋
40代

玄冬
50代



「30代は元気があり真っ赤に燃えている時。40代は今までのものは全て捨てて白紙に戻す時、60代に来て60代の対策は打てない。人間社会で何かを起こしたり身につけたりするためには、その前の10年が必要」という言葉に、望月さんが今まで積み重ねてこられたものの大きさを感じました。特に印象的だったのは、大学受験や就職活動に通ずる

- ・物事の節目に選んだものはその後の人生に多大な影響を与える
- ・何気なく選んだものに真実があるということを知ってもらって良いとのメッセージでした。

最後に、本テーマ『画像設計(芸工大)的な時代の読み方』については、「江戸のデザインや文化、考え方の中に今の時代のグローバルがあるのではないか」とご自身の哲学的な考えで締めくくられました。

閉会にあたり、清須美先生から「同じ講座に属していながらこれだけ3人違うものができあがっているというのがこの芸工大の素晴らしいところだ」との一言。座談会は毎回ぜんぜん違う経験をお持ちの先輩のお話が聞けます。自分の人生を変えるキッカケになるような考えに出会えるかもしれません、ぜひ来年は聞いてみることをみなさんにオススメします！

レポート/画像設計 4年 37期 緒方悠記子

【お詫び】前号にて本コーナーのレポート執筆者氏名に過りがありました。正しくは、本号と同じく緒方悠記子さんでした。関係の各位にお詫びして、訂正させていただきます / 編集長 佐伯

音響設計学科テーマ

音響コンサルタントという仕事

ホール音響設計のやり甲斐と苦悩?!

語り部: 日高孝之(6期) Vs 小口恵司(7期)

今回お話しいただいたお二人は音響コンサルタント、中でもホール音響に関わる仕事をされているということで、私たちの音響設計学科という特色が色濃く反映されているご職業についてお話しいただきました。将来的にホール音響に携わりたいという学生も多いのではないのでしょうか。そんな職業におけるやり甲斐と苦悩とは? 室内音響の今後の展望は? 会場にはピカピカの1年生から、現役仕事人の大先輩方、そして敬愛すべき諸先生方まで、多様な年代が集結しました。



まずはお二人のご職業『音響コンサルト』について。ホールプロジェクトに室内音響や建築音響、騒音対策の面から関わるのですが、コンサルトには大きく二種類あるそうです。日高さんいわく、「私がいわゆる『音響屋』、そして小口さんが『先生』です」という言葉に「いやいやいや」と小口さん。さらに「音響的に追及なさってアドバイスくださる『先生』に、(役職から)コスト的な理由からそれはちょっととお願いするのが私です」という楽しい掛け合いでスタートしました。

日本では儲からない

この会の聞きどころはなんととっても生の声、現場における本音だと思えます。序盤から「日本は知的活動にお金を払わない。日本では儲からない」という生々しい話題。海外と比較したときの、日本の音響コンサルタントに対する認識の低さに対する苦悩を御披露いただきました。日本の音響技術のレベルは、世界的にも認められているほどに高いというのに何故?! その理由を考える中で、海外と日本を比較して、プロジェクトにおける音響コンサルトが受け持つ仕事量の違いや、契約システム(クライアント先)の違い、それに伴う報酬システムの違いなど、目にしたことのない世界を垣間見ることができました。

一方、<勇気の湧くプロジェクト紹介>と題して、お二人のこれまでに関わってこられた国内外のホールを、写真とともに紹介いただきました。「美しい」と見とれるようなホールや、演奏者を聴衆が360度取り囲むようなホール、また逆に聴衆を演奏者が取り囲むように設計されたホールなど、各ホールの設計意図や建設にまつわるエピソードなどを数多く語っていただきました。多数のホールひとつひとつに丁寧なご紹介をいただき、やはり、手がけた作品への思い入れは相当なのだろうと感じました。

目指す音のイメージ

さてここで、ホールの設計に限らず<音づくり>を行う現場では共通の難題となるであろうお話も。音響設計者は、今回ですとホールという作品の、『良い音』を追求して試行錯誤を行います。しかし『音』とは目に見えない存在。依頼主の求める音とはどういうものなのか、音の最高品質とは何か、そういった目指す音のイメージの共有とそれを実現するためのプロセス、それが非常に難しい。先輩や先生方が



らの意見も飛び交い、議論は白熱しました。どなたもやはり、音にこだわり音に取り組み続けているのだなと思いました。私自身とても共感すると同時に、今後とも考え続けたい課題です。

良い音を作りたいのならば、良い音を知らなければ叶えられないこと。「学生のうちに、本物を、世界を見てきてください」、そして「音を理論的に・芸術的に関連させながら聞いてみてください」、このメッセージを心にとめて、私も音と付き合っていきたいです。音について熱く取り組む先輩も同輩も後輩も集うこの場所で、改めて音について考える機会を得たことに感謝致します。ありがとうございました。

レポート / 音響設計学科4学年 竹野文弥子

工業設計学科テーマ クルマの現場の「つなぎ」屋さん

これが芸工生のいきる道

語り部：田中雅子(工業25期) Vs 池田美奈子(人間生活システム部門 准教授)

「今学んでいることは、社会に出てどう役立つのだろうか？幅広く学んでいるけれど、これで大丈夫だろうか？」社会に出て働いたことのない学生は、このような不安をどこかで抱えていると思います。そのよう



うな中で、第一線で活躍しているらしい田中先輩(日産自動車株式会社パーシブド・クオリティ部)のお話は、不安を吹き飛ばし、芸工生としての自信を与えてくれる心強いものでした。



見たり、触ったりの実感を追求

工業のみならず、デザインストラテジーなど、幅広い学年の学生ら約30人の前。池田先生の司会進行の下、まず先輩が現在働いている日産自動車での仕事の内容をお話して頂きました。パーシブド・クオリティ部では<本物らしさ、使いやすさとは>を追求し、感覚に訴えることが大事とのこと。見たり、触ったり、感じられる実感を高めることを追求されているそうです。印象深かったのが、ハンドル周り3つの写真。どのハンドル周りが高級感があるように見えるのかという質問シーンでした。会場が選んだ一番高級感がない写真こそが「30代の人にとっては、これが一番高級感があるように見えるのよ」というお話でした。年齢による価値観の相違と、それを踏まえた商品を提案しなければならないことを改めて考える機会となりました。

次に卒業後の、先輩自身が感じたことをお話して下さいました。芸工には各学科に様々な学問があり、全学科、全学年を横断すれば、さらに多種多様な学問があります。在学学生はそれを全て学べる環境です。一方で、就職活動等で専門に特化している学生と出会うと、幅広く学んできたことに不安を感じる場合があります。しかし先輩は「その芸工の特徴である、多くの分野を学んでいるからこそ、多くの取っ掛かりを持ち合せており、専門分野が違う人でもそれをきっかけに多くのことを聞きだせることがメリットだ」と仰っていました。また、現場からは「センスのある設計者、工学的な知識のあるデザイナーが欲しい。」という要求があるそうです。まさにそれを実現出来る環境が芸工ではないかと、今まで学んできたことに大きな自信を得ることが出来

ました。

このような座談会は、いまから社会に出て行こうとする私たちにとって、業界の話を聞けるだけでなく、不安なこと考えていることを、直接聞きだせる良い機会になるのではないかと感じました。そして、先輩たちとの交流を通じて、未来の自分像を構築するための絶好の機会だと思いました。このような素晴らしい出会いに1年生から参加することを、是非お勧めしたいと思います。

レポート/工業35期 谷口恭子(大学院博士前期課程2年)

芸術情報設計学科テーマ

人と情報を制するものが世界を制す！

社会における芸術情報設計とは

語り部：永川恵浩氏(2期) Vs 佐藤嘉一氏(3期)

今年で二回目となる芸情の座談会。今年の講演者は(株)クレスコビジネスソリューション事業部の永川恵浩氏と西日本電信電話(株)マーケティング部の佐藤嘉一氏。両氏がまだ30代手前であることと、二人のユニークなキャラクターも相まって、学生と社会人の両方の視点を持ったにぎやかな座談会になった。

普通の中の普通

永川氏の現在は、システムエンジニアとして社内でのプロジェクト統括を担任されている。氏は<普通>をキーワードに、学生当時と現在の仕事を語ってくれた。自らを普通と称し、人生・仕事における成功談、失敗談(こちらの方が多かった)を、熱く話してくれた。時として自虐的に自らを皮肉ってみせ、また同時に普通であることの価値を



分かりやすくお話いただいた。<普通>であることは、客観的な目をもち、情報をまとめることができる。このことがシステムエンジニアに求められる資質、能力であり、社会においても求められる人材であるのだ。これは次に続く佐藤氏の話とも重なる部分であった。

クリエイティブな仕事には就かなかったが

佐藤氏は現在マーケティング部にてインターネット光通信の促進等に関する業務に携わっている。大きな金額が動く営業的な話の一方で「マーケティングの基本は1対1」等の印象的な言葉が聞けた。氏は在学時に得た大事な力として<客観的に説明できる力>を挙げた。これは相手を納得させるために重要なことであり、その基礎(氏は大学院在学時に主観評価法を用いた分析を行っていた)となる考え方を大学で学べたことは大きいと述べた。『クリエイティブな仕事に就かなかったが』という講演の副題は、クリエイティブ、ものづくりという意味を狭義に捉えてほしくないという先輩としてのアドバイスが含まれていたに違いない。

ご両人は在学学生とも歳が近いこともあり、座談会の中で学生と視線を合わせながら会話をしていたのが印象的でもあった。身近な先輩との会話は現実味、親密感がある。私は今回の講演者二人とは先輩と同期の関係に当たるが、苦楽を共にした同士の活躍を聞いたことは私自身にも大きな励みになった。来年の座談会においても若さとエネルギーをもった先輩の話を楽しみたい。最後に多忙の中、座談会に時間を割いてくれたご両人に感謝の意をここで表したい。

レポート / 富松研究室博士3年 馬場哲晃

熱い想いを語り継ぐ----- 同窓会 自主企画 『芸術工学 座談会』

私の仕事「語り部」募集中

私的デザイン論 成功と失敗 喜びと苦悩 叱咤激励 なんでもOK。
詳細は同窓会事務局までお問い合わせください。同窓会ホームページ(下記アドレス)にてお問い合わせの際は、氏名・出身学科・入学期をお書き添え下さい。

<http://www.alum.design.kyushu-u.ac.jp>

芸術工学40周年を迎えて

1968年に九州芸術工科大学が創立されて、早40年。九州大学との統合から4年を越えて現在に至っています。昨年(2007年3月末)には東京ミッドタウンに芸術工学東京サイトを単独で立ち上げ、お陰様で無事に1周年を迎えようとしています。また2008年4月からは大学院(芸術工学府)が再編され、芸術工学専攻には、デザイン人間科学コース、コンテンツ・クリエイティブデザインコース、コミュニケーションデザイン科学コース、環境・遺産デザインコースの4コースが、デザインストラテジー専攻には博士後期課程がそれぞれ新設されます。ちょうど頭から、「技術の人間化」を「知る」、「つくる」、「伝える」、「残す」、「広める」役割をそれぞれが果たす構成になっています。そして平成21年には九州大学内の他学府にユーザーサイエンスの新専攻が設置され、ここも芸工の教員が中心的役割を担うことが大いに期待されているところです。

このように今年は様々な条件が整って40周年を迎えることとなり、これを記念して6月の創立記念日あたりに芸工院と同窓会が連携して、何かおもしろい行事を企画したいと考えています。恒例の同窓会パーティも含めて多くの皆さんのご参加をお待ちしております。

安河内朗(工業5期生)



2008年3月25日、 芸術工学部Webサイトを全面リニューアル! <http://www.design.kyushu-u.ac.jp/>



現在、芸工のホームページは全面的な改訂作業が行われています。長年にわたり多くの方々に支えられてきた当サイトは、九州芸術工科大学時代からマイナーチェンジを繰り返してきましたが、もはや「疲労状態」も限界に達しつつあります。利用者の方々からの要望をふまえて目下、チーム挙げて鋭意作業中です。おりしも芸工創設40周年。新しい芸工の姿をWebサイトをとおしてご覧ください。

脇山真治(画像6期生)



渾沌GOODS実現計画

アイデア提供、ありがとうございました

芸術工学の魂は、環境・工業・画像・音響・芸術情報という5つの設計の切り口で受け継がれ、いよいよ40年。この四月に入学される方々は、芸術工学を学ぶ40周年目の記念入学生となると同時に、学部四年生が卒業するこの三月、九州芸術工科大学という名称は公的に終焉を迎えます。これを契機に、渾沌会でメモリアルグッズを企画し制作してみようという話を前回案内させて頂きました。おかげさまでお問い合わせも多く頂き、芸工大の魂をカタチにする、という企画に関心を持たれている方が多数いらっしゃることを渾沌会役員一同、とても嬉しく、また誇らしく感じております。

企画段階ですので、グッズの種類からスタイリング、販売経路なども全て未定です。



それでは、そのイメージとサンプルを送って頂いた分をご紹介申し上げます。

渾沌マーク付きカップ/広川隆氏(工業3期)

マチエールは無地白磁(青白磁)のカップです。陶土は磁器になりますので、透光性があります。胴体部分に、渾沌マーク(ReMember表紙上部参照)をレリーフで貼り付けます。カップとしてご提案頂きましたが、他の企画にもご対応頂けるということです。

現在、広川氏は郷里の山口市にて陶芸家として活躍されています。在学中は第一回火祭り隊長を務められたとか!お忙しいなか、誠にありがとうございました!

他にご提案頂いたものは、例えば芸工大の外壁をイメージしたコンクリート製の小型スピーカーだったり、芸工大40年間の歩みを綴ったイメージDVDであったり。

まだまだ募集致します!きっとまだまだご提案頂けると期待しております。九州芸術工科大学の追憶のため、これから芸術工学を武器

に社会へ挑む、私たちの仲間となる若いデザイナー達へ、先輩である私たちのデザインで、記念品を創って参りましょう!

今後の詳細は同窓会HPで

<http://www.alum.design.kyushu-u.ac.jp/>

今後とも会員の皆様よりご提案頂く作品や頒布計画は、具体化される過程と共に渾沌会サイトにてご紹介申し上げます。これらは現在役員会にて討議されておりますが、ゆくゆくは会員の皆様で相互に様々なご提案及び討議がなされていくよう、リアルタイムのリメンバー「ReMember on the WEB」を設置させて頂いております。芸工大設立40周年を迎えるこの2008年度を機に、本格稼働を目指します。学生時代の思い出に浸るもよし、ビジネスの契機とするもよし。ちょっとした契機が、皆様のおおきな出会いになることを願っています。

2008年2月8日(金)から3月2日(日)まで、東京ミッドタウン・デザインハブ第8回企画展「九州のブランドデザイン展」が開催されます。私も出展させて頂くのですが、その際、九州大学・芸術工学東京サイトもセミナー会場として利用させて頂きます。通称G-PARNと呼ばれるこの空間は、まさに芸術工学(Geikou)のProgressiveでAttractiveでRemarkableなNewsを発信できる場であると感じています。こういったハードが整うなか、ソフトの企画はとても重要となります。渾沌会会員の皆様の卓越したアイデアが、そのソフト企画となり、ソフトとハードを繋ぐ担い手となるのが、渾沌会役員である私たちの責務ではないかと考えています。皆様のご意見をカタチにするファシリテーターになり得るよう、邁進します!

まずはこの渾沌グッズ、しっかり世に送り出したいですね。そして様々な意見の飛び交うウェブで支えていきたいものです。

頑張ります!会員の皆様、是非ともお力添えをよろしくお願い致します!

牧野剛己(音響27期)



渾沌GOODSデザイン&マネジメントプラン募集中!

何を創ろう? どう使う? いくつ造ってどう売ろう? あなたの芸工スピリッツをご披露くださいませ!

問い合わせ先: 同窓会HP <http://www.alum.design.kyushu-u.ac.jp/> FAX(092)553-4520(河原)



通常総会

総会出席者は44名（準会員11名を含む）と例年並みでした。2006年度事業及び決算報告及び2007年度事業計画及び予算案の審議は、特に協議がなく形式的なものに終始しました。活動費が年々逼迫するなか従来通りの活動が難しい状況になりつつあり、財源の確保と併せて今後の活動のあり方について多くの会員の方からのご意見やアイデアをいただきたいのが正直なところです。会員の皆様には積極的な参加をお願いしたいと思います。

会費管理と徴収検討

財源の確保に関しては、九大合併以降に大きく低下した会費徴収率が問題となっております。この問題に関しては、2006年度に会費未納入者の保護者に宛ててリメンバー送付時に督促状を同封する試みを行ったところ、年度末までに62件（4月以降総会当日までに追加で40件）の入金があり一定の効果が上がりました。納入者と未納入者間で不公平感を感じるといった会員からの意見も寄せられており、未納入者の督促を継続すると共に、入学時の会費徴収率向上について引き続き工夫を重ねていく計画です。一方で、年々目減りする繰越金に歯止めをかけるため、2007年度予算については、緊縮財政を意識した予算組として支出を大幅に抑える案としました。

名簿発行

事業計画案には名簿の発行を挙げていますが、財政的に余裕が無く発行の是非を含めて検討を継続するため、発行が流動的にならざるを得ない状況です。そのため、予算の項目としては計上せずに予備費に含めました。発行する場合でも、名簿の有料化を含めて同窓会活動の継続に支障のない支出の範囲に収まるような形になるよう検討中です。

芸術工学座談会の開催

芸工大創立の6月を芸術工学月間に定着させるべく毎年開催しているものです。2006年度からは「ホームカミングデー」という大学の行事としてオーソライズされました。学生への告知方法を年々工夫した成果が上がっており、参加者は年々増加傾向にあります。それに伴い、学生の懇親会への参加も年々増加しています。役員側としては、準会員の同窓会活動への積極的な参加が、同窓会活動の若年層増加と活性化に繋がることを期待しています。



懇親会



今年も福岡サンパレスにて開催しました。総勢113名の参加者と2年前の倍以上の参加者、学生（準会員）に限れば昨年より倍増となりました。音響1期生有志によるミニコンサートもあり大変盛況なものとなりました。学生にとっても、大先輩から芸工大創成期の貴重な話が聞けるなど大変有意義なものになったようです。懇親会終了後も昔話は尽きることが無く、大先輩の破天荒な学生生活のエピソード披露で大橋に戻る送迎バスの中は爆笑の渦でした。

本部役員：川瀬康彰（音響23期）



本部活動報告

- 2006.6.3 2006年度通常総会・懇親会の開催
通常総会への若年層参加促進検討
[懇親会に26名参加（準会員・新卒者合計）]
2006年度芸術工学座談会企画・実施
[総会出席者33名/委任状564名/懇親会82名]
- 2006.9.23 関東支部新卒社会人懇親会へ出席
- 2007.1.31 同窓会報「リメンバー」第10号の発行
- 2007.3.30 G-PARNのオープニングセレモニ出席
随時 会費管理・徴収検討
在学生の保護者へ督促状送付/2007.3末現在69件入金]
名簿メンテナンス
名簿作成準備・検討委員会 [総会案内にアンケート実施]
渾沌グッズのデザイン募集開始 [継続中]
2007年度芸術工学座談会の企画・準備
[リメンバー第10号に講演者等予告]
学園祭支援
WEBへの記事掲載

関東支部活動報告



- 2006.6.3 2006年度渾沌会本部「通常総会」出席
- 2006.9.23 新卒社会人懇親会開催
関東支部の活動の基礎となる在籍者の把握と懇親会の推進
[新卒22名・前年卒14名を含む65名参加]
- 2007.3.30 東京ミッドタウン デザインハブ
「九州大学・芸術工学東京サイト」との連携開始
[オープニング告知協力や今後の連携について検討開始]
随時 ホームページをコアとしたコミュニティ活性化の推進
[SNS等のテスト運用他]

関西支部活動報告



- 2006.4.8 「新卒者歓迎会」、「お花見懇親会」を開催 [参加者15名]
- 2006.6.3 2006年度本部通常総会出席
- 2007.3.26 会員若年層の参加による同窓会活動の活性化
九州大学芸術工学部・九州芸術工科大学「卒業式」への参加
随時 関西支部webサイトの改善検討

みんなで創るWeb版リメンバー

現況（勤務先・住所などの登録情報）は、WEBから更新可能です



- 本部 <http://www.alum.design.kyushu-u.ac.jp/>
- 関東支部 <http://www.konton.jp/kanto/>
- 関西支部 <http://konton-kansai.com/>

2008年度 総会開催 5月31日(土)

創立記念日6月1日の前日ですので、多数の参加を期待しています

詳細は改めてご連絡申し上げます

九州大学芸術工学部・九州芸術工科大学同窓会会報 11

同窓会事務局発行 2008.2.1

編集長 佐伯正毅（画像2期）

取材 & 写真協力 OB先生他オールスタッフ